



HAL
open science

IFLA リヨン大会へのおさそい ① リヨン市立図書館
Miyuki Yamamoto

► **To cite this version:**

Miyuki Yamamoto. IFLA リヨン大会へのおさそい ① リヨン市立図書館 . 図書館雑誌, 2014, pp.276.
<halshs-00979253>

HAL Id: halshs-00979253

<https://shs.hal.science/halshs-00979253v1>

Submitted on 18 Feb 2016

HAL is a multi-disciplinary open access archive for the deposit and dissemination of scientific research documents, whether they are published or not. The documents may come from teaching and research institutions in France or abroad, or from public or private research centers.

L'archive ouverte pluridisciplinaire HAL, est destinée au dépôt et à la diffusion de documents scientifiques de niveau recherche, publiés ou non, émanant des établissements d'enseignement et de recherche français ou étrangers, des laboratoires publics ou privés.

パリに次ぐフランス主要都市の一つリヨンは、アルプスを源とするローヌ川に、ヴォージュ山脈からのソヌ川が注ぎ込む合流地点 (confluence) にあります。そのリヨンで今夏 IFLA 大会が開催されます。地理的にも歴史的にも交流の要所として栄えてきた町リヨンに因んだのでしょうか、大会のテーマは「図書館、市民、社会：知識への合流地点」 (Bibliothèques, Citoyenneté, Société : une confluence vers la connaissance) と掲げられています。

リヨンの図書館事情を思い浮かべると、公共図書館を始め複数の大学・研究図書館、美術館・博物館の図書館、さらには司書養成の国立高等専門学校まであるほど話題に事欠きませんが、一般市民によく利用されるリヨン市立図書館について簡単に紹介します。

パリから TGV(フランス新幹線)で最初に到着するリヨンの駅、パウル・ディュー。駅前のバスターミナルやショッピングセンターなどが広がる賑やかな地区の一角に、リヨン市立図書館中央館の建物がそびえ立っています。5階までが一般利用者向スペース、17階までの上階はサイロと呼ばれる巨大書庫で、およそ 180 万冊に及ぶ各種資料が保存されています。総面積は 27 290 m²フランス最大の市立図書館です。市民のための一般的資料取扱い以外に、納本制度によるローヌ・アルプス地方(州)の出版物を収集しています。また国の文化財としての貴重資料を所蔵管理する指定市立図書館(bibliothèque municipale classée)でもあり、所蔵資料は種類・質・量ともにパリのフランス国立図書館に次ぐとされています。

リヨン市立図書館の起源は 16 世紀まで遡ることができます。15 世紀末からリヨンは年 4 回の定期市が立つ商業都市でしたが、印刷技術の発明・発展に伴う大量の「本」の流通によって知識交流の都市ともなりました。知識人の要請に答えるべくコレージュが設立され、必要な資料を収集保存する図書館(室)も設置されました。ローヌ川沿いの現在アンペール高校になっている所で、メルシエ通り近くのこの界限は当時多数の印刷屋があったそうです。ただこの時代は図書館の閲覧・利用ができるのはコレージュの教授だけで外来利用者は例外的だったようです。

1731 年、旧市街の聖ヨハネ大聖堂地区に、法律関係資料が外来閲覧できる図書館ができ、1765 年にはそれがコレージュの図書館に合併されて 40 000 点の資料が一般市民に開かれるようになり、公共図書館の機能を果たすことになりました。しかし、その後フランス革命期にはコレージュも図書館も軍に占拠・閉鎖され、蔵書コレクションはパリ向けに収奪されたものも多く荒廃したということです。19 世紀には運営が市に任されて図書館はよみがえります。コレージュの図書館に加えて、科学・芸術関連資料の図書館が聖ピエール宮殿(現リヨン国立美術館)にできますが、2 箇所分散は不便なことと何より手狭になったため、1911 年にソヌ川沿いの聖ヨハネ宮殿(大聖堂傍)に両館移転し、さらに 1972 年にパウル・ディューへ移って今日に至ります。

パウル・ディューの中央館は交通の便もよくショッピングセンターに隣接するので、誰でも利用できる憩いの場にもなっています。しかしながらリヨン市立図書館と言うのはこの立派な建物だけでなく、市内の各区に分散してあるすべての図書館をさします。リヨンでは 50 年代末から各区に少なくとも 1 図書館が設置されてきました。当初は区役所内の小さな図書室程度のものでしたが、現在は全 9 区約 48 km²(市民人口約 50 万人)に 14 の図書館があります。それぞれの図書館には大人向け・子供向けと別々のスペースを設け、子どもたちは少々騒いでも構いません。多目的スペースも備えており、様々な催物が行われます。もちろん全ての図書館は中央も含めて連携は密接ですが、活動内容については各図書館が独自に計画運営できる仕組みになっており近所の住民の要請に柔軟に対応できます。

このようにリヨン市立図書館 BM Lyon は長い歴史と豊富な蔵書を誇るとともに、人々の生活に溶け込んで市民にとって無くてはならない身近な機関となっています。

参考文献 リヨン市立図書館ウェブページ

Pages web de la BM Lyon <http://www.bm-lyon.fr/accueil/organisation-BML/Historique.htm>